

2歳以上 18歳以下の麻疹風しん混合予防接種の説明書

西東京市

◇麻疹（はしか）について

麻疹ウイルスによって引き起こされる、急性の全身感染症です。

麻疹ウイルスの感染経路は、空気感染、飛沫感染及び接触感染で、ヒトからヒトに感染し、感染力は非常に強いといわれています。

免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続するといわれています。

◇風しん（三日はしか）について

風しんウイルスによって引き起こされる急性の発疹性感染症です。

風しんウイルスの感染経路は飛沫感染で、ヒトからヒトに感染します。

症状は、不顕性感染（感染症状があらわれない）から、重篤な合併症の併発まで幅広く、特に成人で発症した場合は、高熱や発疹が長く続いたり、関節痛を認めたりするなど、重症化することがあります。

また、脳炎や血小板減少性紫斑病を合併するなど、入院加療を要することもあるため、軽視できない病気です。

また、風しんに対する免疫が不十分な妊娠20週頃までの妊婦が感染すると、先天性風しん症候群の子どもが生まれる可能性が高くなります。

先天性風しん症候群：白内障、先天性心疾患及び難聴のほか、先天性緑内障、色素性網膜症、紫斑、脾腫、小頭症、精神発達遅延、髄膜脳炎など

◇麻疹風しん（MR）混合ワクチン（生ワクチン）

ワクチンの接種を受けることで、95%程度の方が免疫を獲得することができるといわれています。また、2回の接種を受けることで、1回の接種では免疫の獲得ができなかった方に多くの免疫をつけることができます。

麻疹または風しんのいずれかにかかったことがある方にも、麻疹風しん（MR）混合ワクチンを使用することが可能です。

【副反応】

接種後に多くみられる副反応は、発熱、発疹、鼻水、せき、接種部位の紅斑・腫脹（はれ）などです。

また、まれにみられる重大な副反応として、アナフィラキシー、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）、脳炎・脳症、けいれん、血小板減少性紫斑病などがあります。

1 対象者

定期接種の対象者を除く 2歳以上 18歳以下の市民

※定期接種の対象年齢は次のとおりです。

第2期…5歳以上7歳未満で小学校就学前の1年間にあるお子さま

(小学校1年生になる前年の4月1日から翌年の3月31日までの1年間)

2 接種方法

指定医療機関での個別接種

※予約が必要な場合がありますので、必ず指定医療機関に確認してください。

3 持ち物

母子健康手帳、記入済みの予診票、予防接種費用

4 自己負担額

麻しん風しん混合(MR)：5,840円

風しん単独ワクチン：4,030円

※生活保護受給世帯、中国残留邦人等支援給付世帯の方が、受給証明書等を医療機関に提出した場合は無料です。

5 他の予防接種との間隔

生ワクチン(注射)	
・BCG	・麻しん風しん混合(MR)
・麻しん	・風しん
	・水痘(水ぼうそう)
おたふくかぜなど	

※接種日の翌日から数えます。

27日間以上おく
(4週間後の同じ曜日から可能)

他の生ワクチン
(注射)

6 その他

検温は、当日指定医療機関で行います。

<13歳～15歳の方が、1人で接種を受けに行く場合>

保護者がこの説明書の内容を理解し、納得した上で、お子さまに予防接種を受けさせることを希望する場合に、予診票にあらかじめ保護者の方が署名することによって、保護者の同伴なしで予防接種を受けることができます。

当日は、保護者の署名済の予診票と母子健康手帳を必ず持参させてください。

接種の可否を判断する際に、疑問等があれば、事前にかかりつけ医や西東京市子ども家庭課(042-439-3511)に確認して、十分納得した上で、検討してください。

なお、予防接種を受ける本人が16歳以上の場合には、保護者の同伴も署名も必要ありません。本人が予診票に署名をすれば接種が可能です。